

平成21年千葉市教育委員会会議
第12回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成21年千葉市教育委員会会議第12回定例会会議録

日時 平成21年12月18日(金)

午後1時00分開会

午後1時30分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 津田 英彦
 委 員 岩沼 静枝
 委 員 内山 英夫
 委 員 梅谷 忠勇
 委 員 和田 麻理
 教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 平賀 周 教育センター所長 山下 正敏
 教 育 総 務 部 長 青葉 正人 養護教育センター所長 宮田 浩
 学 校 教 育 部 長 岩切 裕 生涯学習振興課長 宇留間 正
 生涯学習部 長 河野 正行 社会体育課長補佐 田中信治郎
 総 務 課 長 森島 俊之 青 少 年 課 長 三野宮純一
 教育総務部参事(企画課長事務取扱) 山崎 正義 中 央 図 書 館 長 作田 明雄
 学 校 財 務 課 長 伊藤 太一 総務課総括主幹 初芝 勤
 学 校 施 設 課 長 豊田 滋貴 学 事 課 調 整 主 幹 山田 輝夫
 学 事 課 主 幹 芝崎 易生 生涯学習振興課調整主幹 山根 正美
 教 職 員 課 長 時田 猛 総 務 課 主 幹 杉江 達也
 指 導 課 長 小寺 道明 総 務 課 主 幹 大崎 賢一
 保 健 体 育 課 長 嶋田 信昭

書 記 総務課長補佐 内山 健 総務課人事係長 中尾 嘉之
 総務課委員会係長 小池 正彰 総務課主任主事 藤井 拓也
 総務課総務係長 南 久志 総 務 課 主 事 犬飼 綾
 総務課経理係長 高橋 義浩

- 1 開会
津田委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
津田委員長より岩沼委員を指名
- 4 会期の決定
平成21年12月18日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成21年第10回定例会会議録を全委員異議なく承認

7 議事の概要

(1) 報告事項

報告事項(1) 平成21年第4回千葉市議会定例会について

総務課長より報告があった。

報告事項(2) 平成21年度千葉市農山村留学推進事業について

指導課長より報告があった。

報告事項(3) 千葉市立小学校の「30人31脚全国大会2009」への出場について

保健体育課長より報告があった。

報告事項(4) 第34回サンスポ千葉マリンマラソンについて

社会体育課長より報告があった。

(2) 発言の要旨

報告事項(1) 平成21年第4回千葉市議会定例会について

津田委員長 総務課長、報告をお願いします。

総務課長 報告事項(1)「平成21年第4回千葉市議会定例会について」、報告します。第4回定例会は、11月27日から12月16日までの会期で行われました。はじめに、教育委員会に係る議案の審議結果についてですが、教育委員会会議第11回定例会において審議いただきました、地上デジタル放送対応テレビに係る財産の取得についての6議案は、12月3日の経済教育委員会での審議を経て、12月16日原案どおり可決されました。次に、12月2日に行われた議案質疑ですが、地上デジタル放送対応テレビの取

得に係る議案について、1議員から質問がありました。主な内容ですが、「各区での落札率」、「性能・環境面での違い」、「区によって落札業者と価格が違う理由」、「地元業者への発注」、「故障した際の保障」等です。次に、12月7日から9日に行われた代表質問ですが、6会派すべてから質問の通告があり、教育委員会に対する質問が行われました。主な質問の内容は、「学校給食」、「携帯メールによる緊急連絡体制」、「防犯カメラシステム」、「学力状況調査」、「教職員の現状及び指導・研修」、「耐震改修による雇用創出」、「学校適正配置」、「こども手当が就園奨励費に与える影響」、「青少年に関する総合的な施策」、「地域における若者支援のための体制整備モデル事業」、「『子ども・若者育成支援推進法による地域協議会』と『要保護児童対策及びDV防止地域協議会』との関連」、「特別支援教育の充実」等です。最後に、12月9日から15日に行われた一般質問ですが、議員21人から質問の通告があり、このうち11人の議員が教育委員会に対して質問を行いました。主な質問内容ですが、「スポーツ振興施策」、「小中学校統廃合における教育財産の活用」、「学校での子どもの困難事例」、「就学援助制度」、「学校給食」、「図書館と公民館図書室」、「学校用地の無償提供」、「ゴルフ場の指定管理者」、「魅力的な授業」、「教育環境のソフト充実」、「学校の適正配置と統合・学区再編」、「教材費」、「新学習指導要領」、「歴史教科書の採択」、「千葉県学校教育推進計画」、「加曽利貝塚の世界遺産登録」、「教育基本法の改正」等です。

報告事項(2) 平成21年度千葉県農山村留学推進事業について

津田委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 報告事項(2)「平成21年度千葉県農山村留学推進事業について」、報告します。本事業は、「他人を思いやる心や社会性を育成する」、「子どもの自主性・創造性を伸ばす」、「郷土への誇りと愛情をはぐくむ」こと等を目的として、長野県及び県内施設において実施しています。先ず、長野県での実施についてですが、8月21日から25日まで、4泊5日の日程で、小学校23校の6年生児童1,036人が参加し、長野県18市町村において実施しました。2日間のホームステイ、現地小学校との交流会、農業体験や「おやきづくり」などの文化的な体験等、千葉では体験できない多様な活動を経験することができました。実施後に行ったアンケート調査からは、社会性や明朗性が身に付き、自分の行動をその場の状況を考えながら自分で判断する力、係や役割を進

んで引き受ける力等の向上が見られることが明らかとなっています。事業の様子は、現地の新聞・広報誌にも数多く取り上げられました。次に、県内実施についてですが、5月下旬から11月下旬にかけて、97校、7,681人の児童が参加し、千葉市少年自然の家やその他の県内施設を利用して行われました。実施日数については、ゆとりのある日程で多様な自然体験ができるように3泊4日での実施を勧めるとともに、中学校進学の際の不安感を取り除くため、同じ中学校へ進学する近隣小学校が合同で実施するよう、各学校へ依頼しています。主な活動内容ですが、カッター、火起こし、真竹加工、森林体験等の体験活動、現地の小学生との交流活動、和凧作り等の創作活動、地域探検活動等を実施しています。参加児童にとっては、集団宿泊体験ができる貴重な場となっているとともに、小グループを単位とした活動が中心となることから、グループ作りやグループでの活動を通して他を思いやる気持ちが育まれる等、学ぶことの多い事業となっています。今後の課題としては、利用施設周辺の自然や人材等、その地域の特性を生かした活動プログラムの一層の導入と、利用施設周辺の学校との交流、ホームステイ実施の可能性を検討することがあげられます。来年度も、本市児童生徒の体験活動がより充実するよう、さらに努めていきます。

梅谷委員 特に長野県での実施については、県外での千人規模の事業であり大変であろうと思いますが、交流体験、共同学習を通して、子どもの自立心や生きる力を養うことは重要と考えますので、今後も継続していただきたいと思います。

和田委員 ホームステイ先一家庭あたり何人程度の児童を受け入れているのか。各家庭の費用負担は、県内実施と県外実施それぞれの程度か。本市では、文部科学省の「豊かな体験活動推進事業 農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」として11校が指定を受けているが、そのメリットは何か。例えば補助金が交付されるのであれば、それによって家庭の負担軽減につながる形なのか、または、プラスアルファの体験活動ができるようなプログラム策定に使われているのか。以上3点について説明をお願いします。

指導課長 受け入れ人数は、一家庭あたり2～4人程度です。費用については、長野県での実施は10,000円程度、県内実施では、千葉市少年自然の家の場合6,000～9,000円、その他の県内施設は8,000～10,000円程度です。文部科学省の指

定校については、今年度は1,460万7,000円の補助金が交付されており、その使用内訳は、事前調査費、現地までのバス借り上げ料、施設使用料、ホームステイ先への謝礼等であり、各家庭の負担は指定を受けていない学校と変わりません。

岩 沼 委 員 実施場所を県内とするか県外とするかは、どのように決定されるのでしょうか。また、本事業により、どのような効果があったのでしょうか。

指 導 課 長 事業開始から9年目を迎え、ノウハウの蓄積はできていますが、特に県外実施の場合、事前調査や受け入れ先自治体との調整のため、一度は現地へ赴く必要があること、児童・保護者の意向も踏まえる必要があることから、前年度に各学校へ意向調査を実施しています。実施による効果としては、児童に関しては案件説明のとおりですが、引率教員からは、ホームステイ先で受け入れ家族と一緒に生活する等、様々な面で人とのかかわりが出てくる中で、自分で思うようにものが言えない、自分では出来るつもりでいたことができない等の経験をする児童もいるが、自分を振り返り、自分を違った角度から見直すという意味で、いい機会になったのではないかとの報告もありました。また、保護者からの、子どもの変化に驚いたとの声も学校を通して聞いています。

内 山 委 員 児童の参加は、希望制ではなく必須なのでしょうか。

指 導 課 長 教育課程の中で実施していますので、原則、全員参加としています。

報告事項(3) 千葉市立小学校の「30人31脚全国大会2009」への出場について

津 田 委 員 長 保健体育課長、報告をお願いします。

保 健 体 育 課 長 報告事項(3)「千葉市立小学校の「30人31脚全国大会2009」への出場について」、報告します。弥生小学校6年1組・5年1組の合同チームが同大会に出場し、準優勝を獲得しました。同校は、10月10日(土)にパシフィコ横浜で開催された南関東大会に出場し、17チームの中で見事優勝しました。その後、各地区大会で優勝したチームによる「公式タイム計測会」で9秒08を記録し、見事1位で全国大会出場を決めました。全国大会は11月8日(日)に、全国の地区大会で優勝したチームのうち、「公式タイム計測会」の上位10チームが横浜アリーナに集まり開催されました。弥生小学校は、1回戦(上位5チーム決定戦)で9秒37の記録を出し、3位で2回戦に出場、2回戦(上位3

チーム決定戦)では、9秒40の2位で決勝戦に出場しました。決勝戦では、記録9秒40で、残念ながらわずかの差で優勝は逃しましたが、準優勝を獲得しました。優勝は熊本県太田郷小学校、第3位は埼玉県南桜井小学校でした。なお、この大会の様子は、12月12日(土)にテレビ朝日で放映され、12月27日(日)朝6時から、3時間にわたる完全版が放送されるということです。

和田委員 指導教員、児童が頑張った成果であり、子どもには非常に良い経験になったことと思います。

報告事項(4) 第34回サンスポ千葉マリンマラソンについて

津田委員長 社会体育課長、報告をお願いします。

社会体育課長 報告事項(4)「第34回サンスポ千葉マリンマラソンについて」、報告します。本大会は、昭和51年に千葉開府850年を記念して開催されて以来、本市の新春恒例の大規模なスポーツイベントとして定着しています。今大会には、現段階で日本各地から1万8,182人のエントリーがありました。開催日は、平成22年1月24日(日)、雨天決行で、9時30分スタートの「5キロメートル男女の部(高校生以上)」より随時スタートします。コースは、海からのさわやかな潮風を受け、千葉マリンスタジアムから稲毛海浜公園内遊歩道を駆け抜ける、平坦で走りやすいシーサイドコースです。本大会は、公式競技としての「日本陸上競技連盟公認のハーフマラソン」を開催するとともに、2キロからハーフマラソンまで全15種目の競技を行い、子どもから高齢者まで、それぞれのレベルに合わせて種目を選んで参加できるマラソン大会です。また、大会ゲストとして、今回も佐倉アスリート倶楽部の小出義雄代表がお見えになり、大会を盛り上げていただく予定です。

内山委員 1万8,000人を超えるエントリーがありましたが、主催者として、先ず安全に走っていただくことが最も重要な課題であると考えています。十分な準備をして臨みたいと思います。

8 その他

- (1) 平成22年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について、学事課主幹より報告があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

学事課主幹 「平成22年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について」、報告します。12月16日・17日の両日、願書の出願受付を行い、男子40人、女子40人、合計80

人の募集定員に対して、志願者は、男子394人、女子446人、合計840人、倍率は男子9.9倍、女子11.2倍、全体では10.5倍となりました。

岩 沼 委 員 平成21年度と比べて倍率が下がっていることについて、どのように分析していますか。

志村教育長 平成21年度は、男子に比べ女子の志願者数が多く、倍率も男子の9.8倍に対して、女子は14.4倍となっていたことの影響と考えています。

学事課主幹 倍率は年々下がっていますが、概ねこのレベルで安定するのではないかと考えています。

(2) 次回、平成22年第1回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。

9 閉会

津田委員長より閉会を宣言